

新しい会話のカタチ

宮城県仙台第三高等学校 普通科

要旨

本研究では、義務教育から英語が必修授業となり、英語に触れる機会が多いが、外国人と対面でうまく会話ができない人が多いという問題に焦点を当てた。そこで、言語力向上以外からのアプローチとしてノンバーバルコミュニケーションについて調べることにした。学生へのアンケート、複数の外国人へのインタビューを通して、ノンバーバルコミュニケーション、主にジェスチャーはコミュニケーションにおいて効果的ではあるが国ごとにジェスチャーが異なるため、国特有のジェスチャーを認識しておくことが必要だという結論に至った。

1 はじめに

現在小学校3年生から英語が必修科目となり、中学校では2011年から必修となった。以前と比べると英が感情が伝わるか解答するものである。

語に触れる機会が圧倒的に増えているのにもかかわらず、実際に英語のネイティブスピーカーと会話すると、ぎこちなく、うまく会話が成り立たないという人が多い。しかし、授業で英語を勉強しているためインプットされている言語力は問題ないはずである。では、言語力以外にコミュニケーションを円滑にする

方法はないかと模索し、ノンバーバルコミュニケーションについて知った。ノンバーバルコミュニケーションとは言葉以外、身振り手振りや表情、話し方などで意思や考えを伝えるコミュニケーション手法を指す。先行研究から、表情について歴史的背景を見ると、日本は島国で外国との交流が少なく、農耕社会であったため集団行動が多かった。周りの人は似た価値観や思考を持つため、相手の本心を探るために意識的にコントロールするのが難しい目を見るようになったと考えられる。一方、外国人、主に欧米は多民族国家が多くそれぞれが異なる価値観や思考を持っている。そのためコントロールが容易な口に着目して、感情をストレートに表現し合っていた。以上より、対面でコミュニケーションを取る際、日本人は目に注目し、外国人は口に注目するという仮説を立てた。

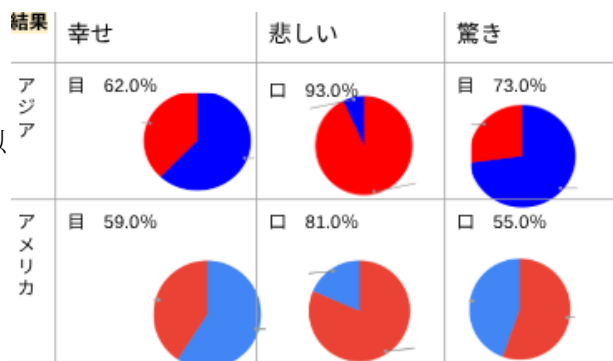
2 検証

仮説を検証するために三高生、韓国人、台湾人、アメリカ人を対象にアンケートを実施した。アンケート内容は「幸せ」「悲しい」「驚き」という感情がそれぞ

れ伝わる、口だけ異なる絵文字、目だけ異なる絵文

字を用意し、口と目のどちらに焦点を当てている方

結果は三高生、韓国人、台湾人を「アジア」としてアメリカと比較した。



赤：口に注目した絵文字 青：目に注目した絵文字 (割合が多い方を表示)

「幸せ」は目に注目した絵文字がアジア 62.0%アメリカ 59.0%、「悲しい」は口に注目した絵文字がアジア 93.0%アメリカ 81.0%である。「驚き」はアジアが目に注目した絵文字 73.0%、アメリカが口に注目した絵文字 55.0%で異なる結果となったが、結果全体で見るとアジアとアメリカの間に、目と口に注目するという差はあまりないという結論に至る。

次に、表情以外のノンバーバルコミュニケーションと作成した。インタビューで得られたジェスチャーの違い、ジェスチャーの違いがあるという仮説を立て、いや利便性などを記載し、外国人と円滑なコミュニケーションを取るための一助となるような内容で国際化協会 MIA と、大阪国際大学国際観光学科を訪る。

問した。MIA ではアメリカの方と中国語を教える方にジェスチャーについて日本と他国との違いを尋ねた。アメリカではピースを曲げる動きを他人の発言を皮肉として引用するときによく使ったり、日本ではこちらへ招く手の動きが追い払う動きとして捉えたりなどの違いが見られた。共通点としてアメリカ人と中国人は日本人と比べて表情に出やすいと考えられる。大阪国際大学国際観光学科リオン・アブラム准教授へのインタビューでは、一回目の訪問同様ジェスチャーの違いと、ジェスチャーはコミュニケーションにおいて効果的かという質問をした。1 つ目の質問では、相手の話に共感するとき日本人は「へえ〜」などと言いながら話を聞くが、アメリカ人は聞いている間は静かに頷くだけのことのほうが多いという違いが見られた。2 つ目の質問では、ジェスチャーは国ごとに異なるので使い方が難しいという意見であった。

3 まとめ

外国人とのコミュニケーションをする際、誤解を減らし、より円滑に会話を成り立たせるためには言語力だけでなく、ジェスチャーを取り入れることで自分の気持ちが伝わりやすくなるということが分かった。しかし、ジェスチャーは世界共通のものもあるが、国独自のものも多い。相手に合わせるため、その国独自のジェスチャーを学ぶことも大切だが国ごとに覚えるのは大変である。そのため日本特有のジェスチャーについて知っておくことが何よりも大切だという結論に至った。日本では普通のジェスチャーだが他の国では誤解を招くようなものがあつたとしてもそれを認識しておくことで不要な誤解や衝突を避けることができる。以上の調査結果及び結論から、海外旅行に行く人や外国人と会話する日本人向けにポスターを

abstract

It is important for us to use gestures and facial expressions to communicate smoothly with foreign people. This method is called Nonverbal communication. We learn gestures from other countries through our investigation, and we understand that gestures are different between Japan and other countries, so there is a possibility of misunderstanding each other. Therefore, we learned we should understand the differences between Japan and other countries, and then we decided to tell people what we found to prevent misunderstanding between Japanese and foreign people.



参考文献

- ・表情の読み取り方に見る文化差～日本人は目、欧米人は口～ 中部経済新聞 2018 年 4 月 18 日
- ・日米対人コミュニケーション比較 小林洋子
- ・Nipmuc High School
- ・ミンダオ高校
- ・チョンリョル高校
- ・公益財団法人 宮城県国際化協会 MIA
- ・大阪国際大学国際観光学科